数値目標・重要業績評価指標

A：基準時の数値を上回っている　　B：基準時の数値と横ばい（±1%）　C：基準時の数値を下回っている

project1　　ふるさと一番！定住促進プロジェクト

数値目標（指標）		
指標	基準値（R2年度）	目標値（R７年度）
生産年齢人口割合	49.81%	維持

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					維持
実績	49.08%	47.61%	46.99%	46.73%	47.10%
進捗状況	B	C	C	C	C

		R3～R7総括
総括	・地元企業のPRや企業見学会の開催、新規就農者への補助金交付などの支援策を講じているが、成果が現れるまでには時間を要する。 ・若者が活躍する機会の創出により地元定着に一定程度寄与する一方、地域を担う後継者の確保が課題となっている。 ・流雪溝整備やおばくるの運行など生活インフラの整備は順調に進んでいることから、暮らしやすさの創造に繋がっている。 ➡各施策は一定の成果を上げているものの、成果が出るまでに時間を要する施策もあり、市独自の人口推計より人口減少が進んでいることから、令和６年度の「生産年齢人口」は基準値より減少している。 ⇒地元企業のPRやキャリア教育など地元就労につながる事業を継続しながら、実態に合わない制度は見直しを行い、より一層の地元就労促進、若者の地元定着を推進していく。	C

地元就労の促進、雇用拡大

重要業績評価指標（KPI）		担当課	基準値（R元年）	目標（R７年）
1	大学生などのインターンシップ受入人数	商工観光課	０人	3人／年

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					3人／年
実績	0人／年	0人／年	0人／年	4人／年	0人／年
進捗状況	B	B	B	A	B

			R3～R7総括
総括	本年度の取組み状況	【農業】新規就農者等を対象に、経営を継承発展させる取組みや規模拡大、条件整備に係る費用に対し補助金を交付。R6実績:22件。また、親元就農者に激励金を交付。R6実績:3件 【企業】市内企業の認知度向上と若者の地元定着を促進するため、企業ガイドブックを作成し、市内の中学3年生及び高校3年生がいる世帯のほか、県内高校等へ配布した。また、中学生・高校生を対象とした企業説明会や企業見学会、山形大学工学部及び人文社会科学部の学生を対象とした市内企業の見学会などを合計9回実施した。 【地元就労】市内の事業所に就職した人に、就職準備金として激励金を交付。R7実績:8件 【教育】高校生等を対象におもたか奨学金の貸し付けを行うとともに、返還免除制度の周知を実施。大学生等を対象に、市内（県内）に定住・就職した場合に奨学金の返済を支援。		
	取組みの効果	【農業】就農にあたっての収入が確保され、新規就農者の農業経営安定が図られた。また農業者の定着につながった。 【企業】高校生等に、市内企業の事業内容や魅力、地元で働くことについて理解を深める機会となった。また、山形大学の学生を対象とした市内中核企業の見学会を通じて、企業と大学との相互理解を深め、今後の人材確保や連携強化につながる機会を創出した。 【地元就労】就職準備に要した費用を軽減させたことで、地元就職の促進が図られた。 【教育】やまがた就職促進奨学金返還支援事業について、平成２８年度から３１名が候補者認定を受け、返還支援者１名、助成対象者２名、在学中及び就業報告中１１名、辞退１７名		C
	課題と今後の取組み	【農業】〈課題〉夏すいか生産量日本一の維持、農業の省力化や生産性向上 ・就農者の現状と課題を把握しながら、補助金制度を実態に合った形に見直していく。 ・各種補助金交付を継続し、スマート農業技術等を活用した省力化により生産性向上を目指す。 【企業】〈課題〉キャリア教育を推進し、幅広い世代で地元企業に対する理解促進が必要。 ・企業説明会や見学会の実施後も、インターンシップや職場体験など、段階的かつ継続的に市内企業と関わる仕組みづくりが必要。 ・山形大学との連携を継続するとともに市外の近隣高校や専門学校等にも対象を広げ、企業見学等の機会を充実させる。 【地元就労】奨励金制度の周知 ・学校や市内企業等と連携し、幅広く制度の周知を行う。 【教育】〈課題〉制度の周知と継続的な支援 ・奨学金返還免除制度の周知が進んでおらず、新たな活用が図られていない。 ・奨学金返還支援事業について、候補者認定の半数以上が辞退しており継続的な支援に繋がっていない。		

数値目標・重要業績評価指標

ふるさと愛の醸成と若者の活躍

重要業績評価指標（KPI）		担当課	基準値（R元年）	目標（R７年）
2	地元企業との交流	教育指導室	０回	各学校１回／年

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					各学校１回／年
実績	各学校１回／年	各学校２回／年	各学校２回／年	各学校3回／年	各学校２回／年
進捗状況	A	A	A	A	A

総括	本年度の取組み状況	【若者の活躍】ウィンタースポーツイベントのクールモンキーカップを開催。 【教育】①福原中及び尾花沢中の各２年生の生徒が地元企業で職業体験を実施 ②福原中及び尾花沢中の各１年生が尾花沢中学校を会場に市内業者が出向き、仕事の一部を体験できるwakuwaku-workを実施 ③福原中及び尾花沢中の各１年生が徳良湖を会場に建設業協会が主催した作業車両を使用した作業体験を実施	R3～R7総括
	取組みの効果	【若者の活躍】花笠高原スキー場を中心にウィンタースポーツイベントを開催することにより地域振興に貢献。また青年層が自ら企画することで地域のリーダー育成にもつながった。 【教育】地元企業への理解が進み、魅力を発見できたことで、将来の仕事への関心、意欲が高められた。	A
	課題と今後の取組み	【若者の活躍】【課題】次代の担い手確保 ・実施主体の青年層が壮年層になっており後継者育成が必要。若年層が各種実行委員会のメンバーになってもらえるよう働きかけ、若手リーダーと地域の担い手を育成する。 【教育】〈課題〉地域貢献、ふるさと愛を切れ目なく育むこと ・今後も継続して企業との交流の機会を創出するとともに、幅広い業種の企業から協力いただける体制を構築。	

暮らしやすさの創造

重要業績評価指標（KPI）		担当課	基準値（R元年）	目標（R７年）
3	公共交通空白地帯	市民税務課	４地区	０地区

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					０地区
実績	３地区	３地区	３地区	３地区	０地区
進捗状況	A	A	A	A	A

重要業績評価指標（KPI）		担当課	基準値（R元年）	目標（R７年）
4	流雪溝整備率	建設課	74%	80%

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					80%
実績	74.87%	74.94%	75.11%	75.15%	75.83%
進捗状況	A	A	A	A	A

総括	本年度の取組み状況	【公共交通】路線バス6路線や大石田駅通学線の運行、生活交通確保値策事業タクシー助成（おばくる）を実施。おばくる利用人数3,311人。 大石田駅通学線利用者18,781人。 【克雪対策】和合・田沢地区、名木沢地区など各地区の流雪溝整備工事を実施。田沢地区は今年度完了。名木沢地区は令和6年度で完了。また、水利権確保に向けた申請手続きの実施。 【観光拠点】徳良湖オートキャンプ場の火災報知設備の設置やWi-Fi環境構築などにより、徳良湖周辺施設の機能強化を実施。 【都市計画】まちなか空き家再生事業により１件の寄付を受けた。 【住宅】克雪住宅や新築住宅の取得支援など、ふるさと暮らし応援事業助成金の交付。家庭用除雪機購入支援110件。 【移動市役所】様々な行政サービスや手続きを自宅周辺で行えるマルチタスク車両を導入。R7より証明書等の出張発行業務を開始。また、投票所閉鎖地区、地元スーパーなどで期日前投票を実施。	R3～R7 総括
	取組みの効果	【公共交通】高齢者及び高校生の移動手段として定着した。交通手段の安定的な確保につながった。 【克雪対策】地域住民の除雪作業負担軽減が図られ、暮らしやすいまちづくりと市の克雪体制強化につながった。 【観光拠点】利用者が安全に施設を使用し、安心で快適な憩いの場の創出につながった。 【都市計画】不良住宅解体による安全安心な居住環境の整備と空き家跡地の利活用による市街地の活性化が図られた。 【住宅】市民及び移住者に対し所要の助成を行い、快適な生活環境づくりに役立ち、定住促進につながった。 【移動市役所】従来の市役所での期日前投票に加え、各地区公民館で実施することで交通手段が少ない地区の方にも投票しやすい環境が整備された。	B
	課題と今後の取組み	【公共交通】〈課題〉利用者数の低下と委託料等経費の増高。 ・路線バス一便あたりの利用者が1.39人と輸送効率が悪くなっており、利用者の需要に合わせた運行ダイヤの再編が必要である。交通需要を分析しながら、ＪＲや48ライナーとの乗り継ぎや利便性の向上に取り組む。 【克雪対策】〈課題〉更なる克雪体制の強化と水利権の確保 ・各地区の流雪溝整備工事を継続するとともに、流雪溝の水を確保するため水利権獲得に向けた申請手続きを進める。 【観光拠点】〈課題〉施設の老朽化対策 ・修繕費用が増加傾向にある。徳良湖周辺整備マスタープランに従って優先順位を付けながら適切に施設整備を実施する。 【都市整備】〈課題〉学校建設に合わせた用途指定 ・都市機能誘導区域の設定と併せて学校建設用地の用途指定を行い、本市の実態にあった都市整備を進める。 【住宅】〈課題〉定住促進のための快適な生活環境づくり ・宅地取得や民間賃貸住宅の家賃補助など補助金交付を継続する。また制度周知のための広報活動を強化する。 【移動市役所】〈課題〉実装しているコンテンツが少なく稼働率の確保が課題。 ・証明書等の出張発行については、各所への周知を行ったものの利用が進まない。市民ニーズを捉えたサービスの検討が必要。	

数値目標・重要業績評価指標

A：基準時の数値を上回っている　　B：基準時の数値と横ばい（±1%）　C：基準時の数値を下回っている

project2　　あのまちで暮らしてみたい！移住促進プロジェクト

数値目標（指標）		
指標	基準値（R2年度）	目標値（R７年度）
移住世帯	70世帯	100世帯

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					100世帯
実績	17世帯（+17）	44世帯（+27）	83世帯（+39）	114世帯（+31）	136世帯（+22）
進捗状況	C	A	A	A	A

総括	・ふるさと納税を通じた本市の魅力発信や様々なイベント開催により、本市に関心を持つ人が増え尾花沢ファンの拡大につながった。 ・空き家バンクの運営や住宅、生活に関する助成金制度の活用により、安心して移住できる環境を整備できた。 ・新たなスノーアクティビティを取り入れた雪まつりを開催し、郷土愛の醸成や観光客増加につながった。 **➡本市の魅力発信や移住政策の推進により移住世帯数は累計136世帯となり、目標の100世帯を達成した。今後も、本市の魅力発信を強化するとともに、移住希望者のニーズに応じた支援や定住環境の充実を図り、令和8年度からの5年間で新たに100世帯の移住を目指して取り組んでいく。** ⇒ふるさと住民登録制度の新しい国の施策に対し、情報収集しながら尾花沢市独自の対応策を考えていく。市と企業が協働する新しい街づくりを推進し、移住世帯の更なる増加を目指す。

R3～R7 総括
A

尾花沢ファンの拡大

重要業績評価指標（KPI）		担当課	基準値（R元年）	目標（R７年）
1	体験ツアーの参加者数	定住応援課	45人	95人／年

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					95人／年
実績	45人／年	36人／年	39人／年	34人／年	12人／年
進捗状況	B	C	C	C	C

重要業績評価指標（KPI）		担当課	基準値（R元年）	目標（R７年）
2	文化・スポーツ合宿の件数	社会教育課	１件／年	６件／年

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					６件／年
実績	１件／年	３件／年	9件／年	9件/年	4件/年
進捗状況	B	A	A	A	A

総括	本年度の取組み状況	【移住体験ツアー】市外の若年層に本市を知ってもらうため移住体験ツアーを開催。R7お仕事発見ツアー２回（農業体験、ものづくり企業見学）、移住者交流会1回。 【ふるさと納税】ふるさと納税を通じた本市の魅力発信。R7寄附実績（申込ベース）：1,981,378千円（昨対比117.6%） 【スポーツ】 ・市内施設を活用した合宿等を行う団体に対し助成金（2,000円/人、100千円上限）を交付。 【イベント】本市ならではの冬の楽しみ方を発信するため、尾花沢雪まつりを開催。
	取組みの効果	【移住体験ツアー】高校生を中心に本市の仕事や地域の魅力を知ってもらい、将来的な地元就職や移住定住を考える機会を創出できた。交流会は移住者に向けたアフターフォローにつながった。 【ふるさと納税】目標だった20億円をほぼ達成できた。尾花沢に関心を持つ人が増え、尾花沢ファンの拡大につながった。 【スポーツ】助成金を活用した合宿が4件あり、市内施設の利用促進と関係人口創出が図られたが、昨年度より減少した。 【イベント】親雪活動の推進と冬の魅力発信により、本市への冬期間の観光客増加につながった。
	課題と今後の取組み	【移住体験ツアー】〈課題〉参加者の確保と移住定住へのつなげ方 ・魅力的なプログラムを企画しツアー参加者の増加を目指す。またツアーを一度の体験で終わらせず、ツアー参加後の継続的な情報発信や再訪を促す取組みを行い、就職、移住相談につなげられるように進めていく。 【ふるさと納税】〈課題〉更なる周知を図るためのプロモーションへの投資（広告予算の確保）と商工観光課、農林課とのPR連携を強化する。カスハラ予防対策としての電話録音の導入。 【スポーツ】〈課題〉合宿誘致数の増加。 ・目標に近づけるよう、市内外団体からスポーツ合宿、交流等で当制度を活用してもらえるようきめ細やかな周知活動に取り組む。 【イベント】〈課題〉雪まつりによる本市の魅力発信継続 ・親雪活動の推進と冬の魅力発信により、本市への冬期間の観光客増加につなげる。

R3～R7 総括
C

数値目標・重要業績評価指標

移住支援

重要業績評価指標（KPI）		担当課	基準値（R元年）	目標（R７年）
3	空き家バンク登録件数	定住応援課	１５件／年	２０件／年

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					２０件／年
実績	１４件／年	１６件／年	１9件／年	１８件／年	１3件／年
進捗状況	C	A	A	A	C

総括	本年度の取組み状況	【空き家】空き家バンク登録制度を運営し、空き家管理に悩む所有者と空き家を購入したい人とのマッチングを支援。空き家相談会を開催し、空き家管理の相談に対応。R7登録戸数:13件、契約成立戸数:12件 【移住推進】移住世帯向けに田舎暮らし体験宿泊費等助成や家賃助成など、IJUターン支援事業を実施。また米や味噌などを支給する県の事業や移住支援制度の周知、運営。 【地域おこし協力隊】地域おこし協力隊（任期3年目2名、任期１年目１名）と、独自イベントの開催や就労支援を実施。
	取組みの効果	【空き家】空き家管理の悩みを抱える所有者と空き家を購入したい買主とのマッチングを実現することで、本市に存在する空き家の利活用促進を図ることができた。 【移住推進】移住者の受け入れ体制の構築、移住世帯への支援を充実により、移住者の確保につながった。 【地域おこし協力隊】協力隊が地域と一緒になった活動を展開したことで地域の賑わいづくりや活性化に繋がった。
	課題と今後の取組み	【空き家】〈課題〉空き家バンクの利活用促進 ・登録可能な空き家をバンクへ登録してもらえるよう周知する。賃貸物件の確保。 【移住定住】〈課題〉県外の移住希望者への制度周知 ・ポータルサイトの活用などにより県外の移住希望者に対する支援制度周知に積極的に取り組む。 【地域おこし協力隊】〈課題〉就業ビジョンを見据えた定住支援 ・引き続き協力隊を募集しながら、定住に向けた支援を実施。また、隊員が活動しやすいようサポート体制を整える。

R3～R7 総括
C

新しい働き方の提案

重要業績評価指標（KPI）		担当課	基準値（R元年）	目標（R７年）
4	北村山ＧＰＳ研究会加入農家数（R6で研究会解散）	農林課	1件	10件
	すいか収穫予測システム利用登録者数		0件	30件

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					10件
実績	6件	6件	6件	6件	
進捗状況	A	A	A	A	
目標					30件
実績	17件	17件	23件	41件	18件
進捗状況	A	A	A	A	A

総括	本年度の取組み状況	【農業】スマート農業技術の導入に対して市独自の補助金を交付。R7交付実績:20件
	取組みの効果	【農業】データを活用した農業を実践している農業経営体が大幅に増加（2020年 17.8%→2025年 36.5%）
	課題と今後の取組み	【農業】〈課題〉スマート農業技術の普及と大型機械を導入するための面的整備 ・スマート農業技術の実装と圃場の大区画化を推進し、スマート農業がより効率的に展開できる環境整備を図る。 【起業】〈課題〉創業・起業の機運醸成 ・広域でのセミナーに参加しながら、本市での起業、創業に関心のある人の掘り起こしを行う。 ・各支援機関との連携を図りながら、創業支援体制の構築を目指す。

R3～R7 総括
C

数値目標・重要業績評価指標

A：基準時の数値を上回っている　　B：基準時の数値と横ばい（±1%）　C：基準時の数値を下回っている

project３　　子育て日本一への挑戦！子育て応援プロジェクト

数値目標（指標）		
指標	基準値（R2年度）	目標値（R７年度）
年少人口割合	9.59%	維持

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					維持
実績	9.26%	8.82%	8.54%	8.25%	7.80%
進捗状況	B	C	C	C	C

総括	・婚活支援は、LaLaネットを中心とした個別相談やお見合い活動を行った。また、急激な少子化により子育て支援拠点の施設利用者数は減少してしまった。一方、「おがぁ～れ」の開所や出産子育て応援交付金事業など新たな子育て支援策の展開により、安心して子どもを産み育てられる環境が整えられた。 ・英語に触れる機会の充実や学校でのICT教育の推進などにより、新しい時代を牽引できる子どもの育成に注力。また、統合小学校建設に向けた動きが本格化し、本市の実態にあった教育環境の整備が進められている。 ・ワーク・ライフ・バランス実践企業支援奨励金の交付により、企業における男女ともに働きやすい環境づくりを支援することができた。また、組織における女性役員の参画率が向上し、本市における女性活躍が推進された。 ➡コロナの影響が軽減し、各施策は一定程度の効果が得られるようになってきているものの、出生数の減少に歯止めがかからず、昨年度より「年少人口割合」が減少している。 ⇒保育園のICT化を推進するなど、デジタル技術を活用しながら保護者の利便性の向上を図り、子育て環境の更なる充実に努める。 ⇒対面でのマッチングを主とするLaLaネットの在り方を見直し、マッチングアプリなどのデジタル技術を活用した婚活支援も検討する。

R3～R7 総括
C

希望を叶える出産・子育て環境

重要業績評価指標（KPI）		担当課	基準値（R元年）	目標（R７年）
1	LaLaネット会員行動日数	社会教育課	375日／年	400日／年

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					400日／年
実績	257日／年	316日／年	321日／年	256日／年	250日／年
進捗状況	C	C	C	C	C

重要業績評価指標（KPI）		担当課	基準値（R元年）	目標（R７年）
2	地域子育て等拠点施設利用者数	福祉課	20,734人	22,000人

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					22,000人
実績	6,106人	3,880人	8,240人	7,204人	7,137人
進捗状況	C	C	C	C	C

総括	本年度の取組み状況	【婚活】結婚相談員２名を配置し相談体制を強化。個別お見合い活動につなげるための情報交換会や広域婚活事業への参加に対し、LaLaネット会員の活動を支援。 【子育て】利用しやすい環境を整えるとともに、出前子育て広場等内容を充実させた。徳良湖室内遊び場「おがぁ～れ」については、木製滑り台や幼児用玩具を購入し施設を充実。 【住宅】新婚世帯の住居費や引越費用に対し助成金を交付。R6実績:1件 【医療】妊婦健診や子どもの医療費助成、予防接種費用等の助成を実施。出産応援ギフト、子育て応援ギフトを給付。
	取組みの効果	【婚活】「LaLaネット」を中心として、きめ細やかな個別相談やお見合い活動をおこなった。 【子育て】リピーターが増えており、高い満足度を得ている。おがぁ～れR7利用者数6,372人 【住宅】新婚世帯の新生活における経済負担が軽減され、安心して暮らせる環境の創出につながった。 【医療】従来事業の継続によりこれまで通りの医療体制を維持できている。加えて、子育てに係る相談支援と経済支援を一体的に実施することで、安心して子育できる環境の構築につながった。
	課題と今後の取組み	【婚活】〈課題〉多様化する結婚観への対応 ・LaLaネットの新規マッチングサポーターを獲得するため、研修会の参加者を広く募る。 ・県やむらやま広域圏で取り組んでいる事業との連携を強化していく。 ・婚活マッチングサイトAiナビやまがた登録の際に市の補助が受けられる体制構築を要請していく。 【子育て】〈課題〉地域子育て支援センターが「おがぁ～れ」と同じ施設に移設したことによる事業連携。 ・イベント内容を充実させることで、利用者拡大を図る。 【住宅】〈課題〉助成金活用世帯の増加 ・利用要件が厳しく活用が進まないため、要件緩和を検討しながら取り組みを継続する。 【医療】〈課題〉効果的に保健指導を行える体制の構築 ・新たな施策展開により現場の負担が増加している。事務効率化や現体制の見直しを検討していく必要がある。

R3～R7 総括
C

数値目標・重要業績評価指標

最適・最新の教育環境

重要業績評価指標（KPI）		担当課	基準値（R元年）	目標（R７年）
3	英語検定合格率	教育指導室	57%	80%
	英語検定受検率		41.4%	

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					80%
実績	62.0%	58.3%	56.9%	62.4%	48.40%
	77.0%	73.6%	87.5%	76.5%	79.00%
進捗状況	A	A	B	A	A

総括	本年度の取組み状況	【英語教育】①英語検定料の年１回助成（助成対象251人） ②English Campの実施（小学５、６年生対象　参加者:14人） ③ALT３名を配置し、市内小中学校で授業支援を実施、Special DayではALT３名が１校で指導 【学校施設】実施設計が完了。概要版を公表し説明会の開催。 【ICT教育】ICT活用授業支援員１名を配置
	取組みの効果	【英語教育】ALTとの交流などで英語に触れる機会を創出したことで、小中学生の英語と国際理解の促進が図られた。 【学校施設】統合小学校に関する住民の理解促進が図られた。 【ICT教育】児童のタブレット活用など、学校の様々な場面で情報機器の活用が進み、ICT教育の充実が図られた。
	課題と今後の取組み	【英語教育】〈課題〉英語学力の向上 ・ALTの配置やイングリッシュキャンプを継続し、英検合格率、受検率の向上とともに英語学力の向上を目指す 【学校施設】〈課題〉尾花沢小学校の令和10年度開校 ・尾花沢小学校の令和10年度開校に向け、厳格なスケジュール管理のもとで建築工事を進める。 ・物価高騰に伴う事業費の増大。 【ICT教育】〈課題〉情報活用能力の向上 ・ICT活用を活用する児童生徒、教職員の能力向上と教育の質向上に取り組む

R3～R7 総括
B

男女がともに輝く地域づくり

重要業績評価指標（KPI）		担当課	基準値（R元年）	目標（R７年）
4	事業主行動計画策定企業数	中央公民館	９社	15社

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					15社
実績	11社	１２社	１２社	13社	13社
進捗状況	A	A	A	A	A

重要業績評価指標（KPI）		担当課	基準値（R元年）	目標（R７年）
5	審議会などの女性委員の割合	中央公民館	8.90%	20%

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					20%
実績	21.3%	29.0%	31.4%	33.0%	34.3%
進捗状況	A	A	A	A	A

総括	本年度の取組み状況	【女性活躍】ワーク・ライフ・バランス支援を実施している企業に対し奨励金の交付を継続。県男女共同参画センターの講座等の広報や性別や年齢にとらわれない社会実現に向けたセミナーを開催。
	取組みの効果	【女性活躍】Ｒ７は２件の交付実績があり、子育てや介護、家庭生活と仕事を両立できる環境づくりの支援に繋がっている。
	課題と今後の取組み	【女性活躍】〈課題〉市内各所におけるワーク・ライフ・バランスの実現と女性の社会参画、女性活躍の推進 ・実現に向けた取り組みを推進するため、関係課と連携を図る。 ・アンコンシャス・バイアスの解消に向けた意識啓発のため、広報活動を中心とした取り組みを継続する。

R3～R7 総括
B

数値目標・重要業績評価指標

A：基準時の数値を上回っている　　B：基準時の数値と横ばい（±1%）　C：基準時の数値を下回っている

project４　　生涯幸せ！健康長寿プロジェクト

数値目標（指標）		
指標	基準値（R2年度）	目標値（R７年度）
健康寿命	男性79.60歳 女性82.20歳	延伸

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					延伸
実績	男性80.2 女性83.6	男性80.7 女性83.4	男性80.2 女性83.6	男性80.2 女性82.1	男性80.5 女性84.3
進捗状況	A	A	A	A	A

総括	・タクシー券の交付やおばくるの運行により移動手段が確保され、高齢者の社会参画が促進された。また、地域づくり団体やボランティア団体への助成により地域活動が活性化し、地域のつながりを深めることができた。 ・スポーツ団体への助成や芸術文化イベントの開催により、スポーツ、芸術文化活動が活性化し、市民の生きがいづくりにつながった。 ・防災機器の導入や防災講座の開催により地域の防災体制が強化された。また、除雪ボランティアへの助成や道路除排雪体制の整備により、安心安全に暮らせるまちづくりを進めることができた。 ➡地域とのつながり強化や生きがいづくり、安心して暮らせる環境の整備により、健康寿命の延伸につながった。昨年度同様、健康寿命は基準値より延伸している。 ⇒人口減少が進む中で、本市にあった移動手段の確保や地域のつながりを維持する施策展開により、更なる健康寿命の延伸に努める。

R3～R7総括
A

つながりづくりと心身の健康増進

重要業績評価指標（KPI）		担当課	基準値（R元年）	目標（R７年）
1	地域づくりに関する視察研修などの開催回数	中央公民館	３回／年	６回／年

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					６回／年
実績	３回／年	２回／年	１回／年	0回／年	０回／年
進捗状況	B	C	C	C	C

重要業績評価指標（KPI）		担当課	基準値（R元年）	目標（R７年）
2	各地区の「ふれあいいきいきサロン」開催数	福祉課	１回／年	３回／年

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					3回／年
実績	3回／年	3回／年	3回／年	3回／年	3回／年
進捗状況	A	A	A	A	A

総括	本年度の取組み状況	【社会参加】交通弱者の移動手段確保のため、高齢者おもいやりタクシー券と福祉タクシー券を交付。R7申請者数：高齢者960人、福祉267人。 【ボランティア】社会福祉協議会で実施する「ふれあいいきいきサロン」などの地域福祉推進事業に対し助成金交付。 【健康増進】市民主体の健康づくりを進めるため、健康教室・出前講座による集団教育、家庭訪問等による個別健康教育を実施。R7：健康教室等の集団教育参加者910人 、個別健康教育参加者289人。
	取組みの効果	【社会参加】高齢者タクシー券は使用率48.4%と好評を得ており、高齢者の社会参加、生活圏の拡大につながった。 【ボランティア】地域ボランティアの育成、地域共助の意識醸成が図られ、地域福祉の向上につながった。 【健康増進】人口減少化においても健康相談の件数が変わらないことから、市民の健康意識向上につながっている。
	課題と今後の取組み	【社会参加】〈課題〉公共交通おばくるとの連携 ・マイナンバーカードを利用したタクシー券の電子化に取り組み、利用者の利便性向上と管理の簡素を目指す。 ・福祉タクシー券の利用率が46.8%とやや低いため、これまで以上に広く制度周知に取り組む。 【ボランティア】〈課題〉福祉ネットワークの維持、協力員の確保 ・各種助成金事業を継続するとともに、民生委員の負荷軽減の方法を検討する。 【健康増進】〈課題〉若年層の参加者増加 ・高齢者の健康づくり意識が向上傾向にある一方、若年層の参加が少ないため、生涯元気づくりポイントを市の公式ライン機能を活用し電子化するなど、誰もが参加しやすい事業や周知方法を検討する。

R3～R7総括
B

数値目標・重要業績評価指標

芸術文化・スポーツを通じた生きがいづくり

重要業績評価指標（KPI）		担当課	基準値（R元年）	目標（R７年）
3	芸術文化活動の発表・鑑賞機会の提供	社会教育課	２回／年	３回／年

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					3回／年
実績	2回／年	３回／年	４回／年	2回／年	2回／年
進捗状況	B	A	A	B	B

総括	本年度の取組み状況	【文化活動】芸術文化活動を行う個人や団体の発表機会を創出するため市民文化祭を開催した。また、俳句を通じ、小・中学生の豊かな感性と心を育むため、少年少女俳句大会を開催した。 【スポーツ】尾花沢市スポーツ協会所属団体が種目ごとに市民総体を開催するための補助金を交付。 【地域振興】除雪共助団体への助成金交付など地域団体が地域振興のためにする活動に対して助成金を交付。
	取組みの効果	【文化活動】市民が芸術文化に触れる機会を増やすことができ、地域における芸術文化の輪を広げることができた。 【スポーツ】各団体の活動を支援することで、市民総体の開催など活動内容の充実につながった。 【地域振興】各集落において継続的な助成金活用があり、地域活動の活性化につながっている。
	課題と今後の取組み	【文化活動】〈課題〉文化際の参加者拡大 ・市内の芸術文化の輪を更に広げるため、参加する団体や個人の拡大に向けた取組みを検討する。 【スポーツ】〈課題〉多様化する競技への対応 ・各団体の費用助成を継続するとともに、多様化するスポーツの場と指導者確保の方法について検討する。 【地域振興】〈課題〉地域づくり活動の担い手確保 ・地域づくり活動を積極的に行う団体の発掘と地域で活動するプレイヤーの育成策を検討する。

R3～R7 総括
C

市民の生命を守る地域の安全対策

重要業績評価指標（KPI）		担当課	基準値（R元年）	目標（R７年）
4	防災行政無線戸別受信機貸与数	防災危機管理課	80台	200台

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					200台
実績	80台	118台	176台	189台	196台
進捗状況	B	A	A	A	A

重要業績評価指標（KPI）		担当課	基準値（R元年）	目標（R７年）
5	防災出前講座の開催	防災危機管理課	１回／年	５回／年

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標					５回／年
実績	13回／年	13回／年	13回／年	15回/年	15回/年
進捗状況	A	A	A	A	A

総括	本年度の取組み状況	【防災】危険エリアに暮らす世帯に対し、戸別受信機を貸与する事業を実施。自主防災組織リーダー研修会や防災出前講座を実施。自主防災組織を対象に、資機材の購入費や組織力向上に資する活動に対して補助金を交付。 【要援護者】災害時、要援護者が安全に避難できる体制を構築するため、要援護者台帳を整備。 【除排雪】冬期の安全な道路交通を確保するため、市道等の除排雪業務を委託。 【除雪ボランティア】社会福祉協議会が運営する除雪ボランティアセンターの事業に対し補助金を交付。 【地域除雪活動支援】集落内の共助により安心して暮らせる地域づくりを目指し、集落内の除雪困難者宅などの除雪を集落内の組織が行うものについて支援
	取組みの効果	【防災】災害時の情報を迅速かつ的確に伝える方法の確立により、災害時の体制の強化が図られた。また、自主防災組織を中心とした地区の防災体制の整備や防災士の育成などを促進することで、市民の防災意識の醸成と地域の自主防災力の向上につながった。 【要援護者】非常時における要援護者の不安が軽減された。災害発生時の支援体制強化につながった。 【除排雪】市内全域の道路除排雪体制が整い、降雪期においても市民が安心して暮らせるまちづくりにつながった。 【除雪ボランティア】地域のボランティア育成、共助の意識の醸成に寄与している。 【地域除雪活動支援】集落内の共助が促進され、高齢者等が孤立する事を防いでいる。
	課題と今後の取組み	【防災】〈課題〉地域間の格差解消 ・地域により防災に対する意識に違いがあり、防災体制（一時避難所等）の整備状況について格差がある。これを是正するため、自主防災組織防災資機材購入事業費補助金の周知拡大及び制度活用の促進により、さらなる地域防災力の強化に取り組む。 ・地域の防災意識や自助及び共助の意識醸成を図るため、地区毎の防災訓練の負担軽減や防災士の育成などを図るべく、自主防災組織向上支援事業費補助金の周知拡大及び制度活用の促進を図り、地域自らの防災意識の向上に取り組む。 【要援護者】〈課題〉災害時の支援体制強化 ・福祉部門と防災部門で、要援護者宅の所在や世帯員数などの情報を共有できるシステムを導入し、災害時に迅速な対応ができるよう支援体制を強化する。 【除排雪】〈課題〉除排雪委託料の確保 ・労務単価、原油価格の高騰により委託料が増加しているため、財源確保に向けた積極的な要望活動に取り組む。 【除雪ボランティア】ボランティア活動の担い手が不足しているため、積極的な周知広報など募集活動を行う。 【地域除雪活動支援】実施している集落が限られており、PRが必要である。

R3～R7 総括
B